



### 親論

佛教すなわち佛の教えとは、私たちがこの娑婆世界において命ある限りは、安穩な日々を過ごせるように、また、命尽きた時には他の善き世界に往生できるようにどの教えであります。

今から二千五百年前、釈尊はこの世界が四苦八苦に満ちた苦界であると省察し、この苦界に沈む私たちをどうしたら安穩にさせられるか、と修行を重ね、苦集滅道の四聖諦を説かれました。

その教えを、室町時代に大道心者と敬仰された開祖真盛上人が「相構えて、無欲清浄にして、よくよく念佛すべし」と遺誠されたのです。

さて、もし私たちが佛の教えを知らず、佛になる道を実践しないとすれば、そのような私たちは、今にも枯れてしまいそうになっている菩提樹に譬えられるでしょう。

そして、この菩提樹を生き返らせるた



めには、水と光が最も必要であり、その水とは、ご遺誠の「無欲清浄」の水であり、その光とは「よくよく念佛」することによって得られる阿弥陀佛の光明であります。

無欲清浄な水とは、清浄な行いであり、清浄な言葉であり、清浄な心であり、畢竟すれば八正道であり、四摂戒であります。また、阿弥陀佛の光明とは、清浄行を実践しつつ、すべての衆生と共に佛となることを願う不断念佛を唱えることによつて攝取不捨される光明であります。

私たちはこの真盛上人のご遺誠を守り、来る二〇二一年の秋十一月に執行される不断念佛相続十九萬日大法会には、その日までの日々の清浄行による甘露の法水と不断念佛による弥陀の光明によつて、枯槁の衆生から薰修の衆生となり、美しい法の花を咲かせましょう。

総本山西教寺 第四十四世

大僧正 真惠

### 喜びの心



天台真盛宗管長

武田 圓龍

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様方がお幸せでありますよう心からお祈り申し上げます。さて真盛上人はそのご遺誠で私たちの心のありようを戒められました。その根本は「すべて悪しきことをなさず、善いことを行い、自己の心を浄める」と、いうことであり、また正しい生活習慣を身に着けるということでもあります。

このことについてお釈迦さまは、これらの戒を守り、正しい生活習慣を具現している人には、次の五つの利徳がある、と、説かれておられます。

- 一つには、勤勉に基づいて大きな財産に恵まれる。
- 二つには、世間の人から好い評判が得られる。
- 三つには、いろいろな人の集まる集会において恥じらうことなしに居ることができる。
- 四つには、心が迷乱することなしに臨終を迎えることができる。
- 五つには、死後には、善い処、天の世界に生まれることができる。

そしてこのような利徳があるということを知つて、私たちには喜びの心が生まれます。

それは、健全な心、柔軟な心、偏見にとらわれない心、澄み切った心でもあります。

真盛上人が諭された無欲清浄とは、まさにこのように戒を守ることでよつて生まれる大きな喜びの境地であります。

# 真盛上人と 百体地藏の伝記



手彫りの地藏尊像

真盛上人はご幼名を寶珠丸と名付けられました。母君がお地藏様が手にされている寶珠を頂いてのむ夢を見て上人がお生まれになった由縁とのことです。上人は十九才にして比叡山に登られて二十年間修学を積みご活躍されますが母君との死別を機に黒谷青龍寺での隱栖を経て「往生要集」を感得された後、山を下りて西教寺に入寺されました。当時の世情は応仁の乱等が久しく続く乱世の只中でした。上人は身も心も疲弊していた人々に、仏の子としての戒律を取り戻しお念仏を称えることの大事を説かれ東奔西走されます。上人は「地藏菩薩の化身なり」と御和讃にも詠われています。また上人ご自身も坂本の日吉大社に度々参詣され就中樹下宮（十禪師権現）を深く信仰され

ました。十禪師権現の本地仏はお地藏様であります。

私事ですが数か月前に越前の米ノ寶樹寺前住の竹澤良全師から問合せの連絡を貰いました。竹澤師には伊勢の村主寺色

井秀宰師のお二人で拙寺六代前の法道和尚『称名庵雜記』を数年かけて翻刻して頂きました。その「雜記第十七卷の天保九年法道和尚近江国遊化の記」の記述に関する問い合わせでした。

【天保九年（一八三八年）時の西教寺貫首真尚大僧都から本山春の法華千部会での説法を命ぜられた法道和尚は病中でしたが喜んで登山いたします。その法会中に重玄和尚は大切にしていた三寸八分の木彫りの地藏菩薩を法道和尚に付嘱します。重玄和尚曰く「円

戒国師手ずからかような尊像を百体彫刻ましまし十禪師権現の社壇の下へ納め給うとなり。即ちその一体にして先年出で給うを即ち社司の家に伝持せしを予受け伝えたり」と記述があるが尊像その物が引接寺に在りますか？とのお尋ねでした。思いがけない大変大事な問合せに内心焦りながら探すとその尊像は本堂裏の経蔵に安置されていました。ノッペラボウの簡素なお姿

で今まで特に気に留めないでいました



六道能化の地藏尊の絵

がお厨子の奥に小さな由緒書もありました。竹澤師が指摘されるまでこの伝記が今まで顧みられることは無く、また同記述後段の【帰途は堅田浜から舟で琵琶湖を渡り木浜で休憩、その際に求めた六道能化の地藏尊の絵軸】は今も拙寺で布教に使用している軸でした。

真盛上人手彫りの地藏尊像を十禪師権現に納めたとの伝記、この雜記以外記述が見受けられず目下あちこちと伝説口伝を探しています。今回のことで、上人と地藏菩薩の由縁を再認識させて頂きました。在家の古いお仏壇から古ぼけた軸が出て来た。実は真盛上人御真筆の名号でしたと恥ずかしながらもよく似た有難い話でありました。

真盛上人とお地藏様の奇特の伝記は各所に伝わり、また我宗多くの寺院はお地藏様が祀られています。私達はお地藏様からも上人の御教えを有難く頂いています。

（文責・木造引接寺 小泉 法秀）

## 天台真盛宗の雅楽 ががく

⑥

今回から真盛楽所設立の経緯になりました。我宗が現在において演奏できる曲について数回に亘って案内しよう。

真盛楽所の設立は昭和六十二年とお伝えしていますが、その設立になる前に最初の演奏として昭和六十一年四月総本山西教寺本堂竣工式で諸天漢語讚と言う天台声明の中では数少ない定曲（拍子有る）の声明が有りその曲に雅楽曲の「迦陵頻伽」を合わせた管弦法要を行う為に真盛宗の僧侶に声がかけれ、本山の研修道場に五十名を超える僧が集まりました。

各教区から五十名を超え集まるのは我宗では素晴らしい集まり方です。ご指導にお越し下さった天王寺楽所の先生方もその熱意に驚かれました。かく言う私も天台声明を習っている若手として故片岡先生から御指名を受けその中に参加させて頂きました。竣工式本番までの猶予はたしか数か月だったと思います。

各地から本山へ出向き稽古をするのですがほとんどが雅楽初心者の僧侶たちを指導し本番までに何とか形にして演奏できたのは上手い下手は別として、今思いますと凄い事だと思えます。

ご指導頂いた先生から本番を迎える

に当たって形ができたのは雅楽で参加した僧侶の皆さんが声明での研鑽を以前からしており音程などがしつかりしていた事だと聞いています。

この時演奏しました雅楽曲、迦陵頻急は当初の演奏は個人的には聞きたくありませんが、最初の曲として思い出深いものです。

その迦陵頻急と合わせた声明が「諸天漢語讚」で寺院の落慶法要や晋山式など祝い事で唱えられる事が多く軽快なりズムの声明で雅楽と合わせなくても良く唱えられ声明の試験課題曲の一つとなっております。

このような経験を踏まえ真盛楽所として設立したのですが、中々簡単には上達しません。それもその筈です練習は御本山西教寺、月一、二回だったのが覚えた事も次の練習時には忘れている事も多々あり前途多難だったと思います。

その中、天王寺楽所の清水修先生が大阪から足を運んで長年にわたって根気良くご指導して下さいました賜物です。そのお陰で真盛宗だけができる演奏曲もできたのですから。

この経験から声明と雅楽の管弦演奏の形態が真盛宗に新しく加わりました。次回は三十二相と宴曲を雅楽演奏したエピソードをお話いたします。

(文責：多治見真篤)

### 在家授戒会に参加して

伊賀教区九品寺檀徒 栗本 了一

私と菩提寺の関係は、大学進学から官庁を定年退職するまで、実家の伊賀市を離れていたこともあり、お盆と年末に墓参りするぐらいの非常に薄いものでした。

また、退職後、実家に帰って二年半ほど経ってから、縁あってお寺の世話人となりましたが、「御忌法要」「施餓鬼会」「十夜法要」、さらには「客殿・庫裡落慶法要」などに関わって、初めてお寺にさまざまの法要がある事を知った程度の人間でした。この程度の人間ですので、今回、四



年に一度の在家授戒会が開壇されることを知っても、信仰心というより、好奇心から、気楽な気持ちで妻と参加させていただきました。

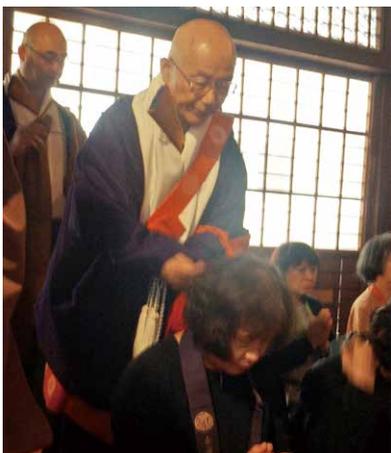
ところが、いざ参加してみると、厳しい現実が待っていました。研修道場での事前説明の際、申し出て椅子使用が出来たのですが、正座でも大丈夫だろうと甘く見てしまい、本堂での剃度式、さらには授戒道場での授戒会で時間の経過とともに、足の感覚がなくなっていく、このままでは、正座から、平伏し、立上り、拝む礼拝の動作が続けられないと強く感じ、ついには正座を崩してしまいました。

その横にいる妻は、平然と正座を続けていました。長年、愛らしい女性か

ら逞しい母、そして、強くて包容力のある祖母の姿となった妻を改めて凄いと実感し、我が身の情けなさに自己嫌悪に陥りました。

そんな悪態を示しながらも、三帰依文(南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧)をいだだいて、「三聚浄戒」「十善戒」に対し、事前説明を受けた「よく保つ」の問答により仏の道に導かれて、仏教に帰依する信者になることを許されました。

その後、本堂にて戒名二文字を授かり、また、祖先に無事に授戒会を終了したことを報告させていただきました。何とか仏縁を結ぶことができました。加えて、控室で一緒にいただいた福井県からの参加者と休憩中にお話しできる機会になりました。これからも、機会をとらえて、仏教、天台真盛宗、真盛上人をもっと理解していきたいと感じた体験となりました。



### 平成三十年宗祖真盛上人鑽仰会 法要・講演・総会について

平成三十年  
九月二十八日  
別格本山西蓮  
寺にて鑽仰会  
法要が厳修さ  
れ、講演・総  
会が開催され  
ました。仏天  
に恵まれ澄み  
渡る秋空のもと会員百余名が参加され  
鑽仰法要勤行式によりお勤め、宗祖大  
師ご入滅の地に響き渡る荘厳な読経の  
声に一同法悦を味わいました。その後、  
武田圓寵管長猥下より賜りましたメッ  
セージを拝読、川合歳明会長による挨拶  
に引き続き九品寺・別所泰広師によ  
る講演を拝聴、別時念佛を鉦鉦を打  
って実践しました。講演後の総会では  
平成二十九年度活動・決算報告並びに  
平成三十年度事業計画・予算を審議、  
全ての議案が可決・承認されました。  
また、本会の更なる発展や入会促進活  
動等、貴重なご意見を頂きました。宗  
祖真盛上人さまのみ教えに触れ、絆を  
深めさせていただく一環として鑽仰会  
へのご入会、ご質問等をぜひお寄せ下  
さい。



合掌  
宗祖真盛上人鑽仰会事務局

### 不断念佛相続十九萬日 大法会記念

#### 写経のおすすめ

お経は文字を見るだけで功德があり、大きな声を出して読誦するとなお大きな功德があり、さらに一文字一文字をお写経すればより大きな功德があるといわれています。

また、写経は自我を滅却するためにを行うの一つです。この機会に、行を実践し、功德を積まれてはいかがでしょうか。

※写経、用紙等の申し込みは、菩提寺のご住職にお申し込みください。

- 一、写経奉納料 一巻 二千元
- 一、写経の種類 十念
- 一、写経の回向  
不断念  
十九萬日大法会中祈願、回向  
致します
- 一、写経の奉安  
親経  
十九萬日大法会終了後萬日  
供養塔へ奉納致します

### ひな御膳・ひな人形展

二月十五日より三月三日まで、食堂に於きまして、ひな御膳をご賞味いただけます。

このひな御膳は子供の成長を祈り食していただくお料理でございます。まず、本堂で息災・健康をお祈りお参りされたあと、表書院で江戸時代から現代までの美術的価値のある人形展をご鑑賞いただき、一日ご家族皆様でお過ごしいただきますようご案内申し上げます。

ひな御膳 二、一六〇円  
ひな人形展 五〇〇円



### 団体参拝 ありがとうございます

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございます。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等の充実につとめてまいりますので、たくさんのお参拝をお待ちしております。

- 六月 六日 伊勢教区射和組真念寺様団体参拝 四名
- 九月 二十六日 伊勢教区真盛組成福寺様団体参拝 四十名
- 十月 七日 伊賀教区北部組西方寺様団体参拝 三十三名  
二十六日 福井教区東部組長久寺様団体参拝 三十七名
- 十一月 十七日 滋賀教区滋賀南組西徳寺様団体参拝 三十三名  
十九日 伊賀教区西部組西蓮寺様団体参拝 二十六名  
二十一日 福井教区東部粟生寺様団体参拝 十六名  
福井教区東部放光寺様団体参拝 五名

発行所 天台真盛宗教学部  
大津市坂本五丁目十三-一  
総本山西教寺内  
電話 大津 (〇七七) 五七八-〇〇一三番代  
印刷所 宮川印刷株式会社  
大津市富士見台三十八  
電話 (〇七七) 五三三-二二四一番